

⑤ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑥ 公開特許公報 (A)

昭55—124763

⑨ Int. Cl.³
C 07 D 213/64
213/70

⑧ 別記号 庁内整理番号
7138—4C
7138—4C

④ 公開 昭和55年(1980)9月26日

発明の級 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

③ 5-トリフルオロメチル-2-ピリドン誘導体

⑦ 発明者 芳賀隆弘

草津市野村町221番地

① 特 願 昭54—32068

⑦ 発明者 長谷邦昭

② 出 願 昭54(1979)3月19日

守山市浮気町321番地の31

⑦ 発明者 西山隆三

⑦ 発明者 林弘仁

高槻市真上町5丁目41番22号

守山市浮気町321番地の31

⑦ 発明者 藤川敬一

⑧ 出 願 人 石原産業株式会社

守山市浮気町321番地の31

大阪市西区江戸堀1丁目3番11号

⑦ 発明者 横道政

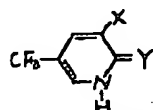
草津市野村町221番地

明 記 号

1. 発明の名称 5-トリフルオロメチル-2-
ピリドン誘導体

2. 化学式の図

1. 一般式



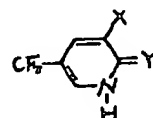
(式中Xはハロゲン原子又はヘロゲン原子であり、Yはハロゲン原子又はイオウ原子である。但し、Xがハロゲン原子の場合、Yはイオウ原子である。) で置換される5-トリフルオロメチル-2-ピリドン誘導体。

3. 図の図面

本発明は、図1、図2、図3などの中図面として有用で、図1を5-トリフルオロメチル-2-ピリドン誘導体に用いる。

詳しくは本発明は一般式

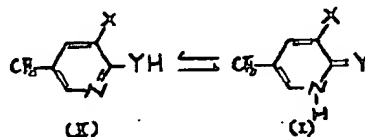
- 1 -



(I)

(式中Xはハロゲン原子又はヘロゲン原子であり、Yはハロゲン原子又はイオウ原子である。但し、Xがハロゲン原子の場合、Yはイオウ原子である。) で置換される5-トリフルオロメチル-2-ピリドン誘導体である。

図1一般式(I)の5-トリフルオロメチル-2-ピリドン誘導体は、図2に示すような互換性として存在することができる。



(X)

(Y)

(式中X及びYはハロゲンの原子である)

図1一般式(I)において、Xで置換されるヘロゲン原子としては、図2、図3、図4、図5が例示される。

- 2 -

ヲを得た。

合成例 2 5-トリフルオロメチル-2-チオ
ピリジン

2-クロロ-5-トリフルオロメチルピリジン 4g とチオ尿素 1.67g とをエタノール 30ml に溶解させ、加熱して還流状態で 3 時間攪拌下に反応させた。その後、水酸化カリウム水溶液 1.23g を徐々に加えて還流状態で 1 時間反応させた。反応終了後、生成物を放冷し、希アルカリ水溶液中に投入して塩化メチレンで洗浄し、酢酸で酸性にした。次いで、塩化メチレンで抽出し、抽出層を水洗後無水硫酸ナトリウムで乾燥させ、塩化メチレンを留去して融点 147~150℃ の目的物 2.1g を得た。

合成例 3 3-ブロモ-5-トリフルオロメチル-2-ピリジン

5-トリフルオロメチル-2-ピリジン 0.4g を酢酸 10ml に溶解させ、そこへ臭素 0.4g を加えて攪拌下で 4 時間反応させた。反

特願 55-124783(3)

応終了後、酢酸を留去し、塩化メチレン- α -ヘキサンの混合溶媒で再結晶して融点 162~165℃ の目的物 0.45g を得た。

合成例 4 3-クロロ-5-トリフルオロメチル-2-チオピリジン

2-クロロ-5-トリフルオロメチルピリジン 4g に代えて 2,3-ジクロロ-5-トリフルオロメチルピリジン 4.75g を用いる以外は前記合成例 2 と同様にして反応を行ない、後処理を行なって融点 125~128℃ の目的物 1.9g を得た。

特許出願人 石原産業株式会社